

旭化成、興亜、三興とも 公害防止協定を結ぶ

市は大手12社15工場と公害防止の協定をすすめています、
10月31日、旭化成工業、興亜工業、三興製紙富士工場と協定
を結びました。これで協定を結んだのは8社10工場になりま
した。なお、これまでの協定も含め市が必要に応じて「立ち
入り調査」ができるように協定を改めました。

旭化成工業

協定を結んだのは大気汚染防止、緊急
時対策、河川汚濁防止の3項目です。

大気汚染の防止は、燃料の低イオウ化
として現在使用中のイオウ分2.7%の重
油を、44年11月から2.5%以下の重油に
します。



【工場から排出される水質を保つために
中和槽、沈澱槽などを拡充しています】

汚染物質の拡散希釈は、現在使用して
いる25%煙突を廃止して、12%の煙突
を新設します。工事の完成は45年12月31
日です。なお、7%煙突はそのまま使用
します。

窒素酸化物については、いままで18%
の煙突から排出していたのを、6%の高
煙突から排出するようにします。さらに
排ガスを水洗滌による方法、電気集じん
器による処理方法を検討していますが、
本年度中に改善工事を実施させます。

緊急時対策は、富士地区大気汚染緊急
時対策実施要綱にもとづき、市の施策に
積極的に協力させます。

河川の汚濁防止は、すでに中和槽、沈
澱槽を設置し、水質保全につとめていま
すが、さらに中和槽、沈澱槽を拡充して

排水処理を行ないます。工事は44年12月
31日までに完成します。総工費は約5億
円です。

興亜工業

大気汚染防止、騒音防止、緊急時対策
の3項目を第1次計画として協定を結び
ました。排水対策などについては第2次
計画として協定していきます。

燃料の低イオウ化は、現在使用中のイ
オウ分2.6%から3.0%の重油を、今月か
らイオウ分2.5%以下の重油にします。
46年度以降は市の実施する低イオウ化に
積極的に協力します。

重油ボイラーの排ガスは拡散希釈の効
果をはかるため、使用中の36%煙突を廃
止して、11%の高煙突を45年12月まで
に新設します。これにより、地上濃度の
推定値は0.0197 P P mになります。

チツブ粉の飛散防止は、45年6月まで
に改善計画をたて、9月中に工事を完了
させます。

騒音防止計画は、高さ4%のコンクリ
ート壁、二重窓、サイレンサーなどを設
置し、騒音対策に万全を期させます。

緊急時対策は、富士地区大気汚染緊急



【協定書に調印する斉藤市長と興亜工業代表】

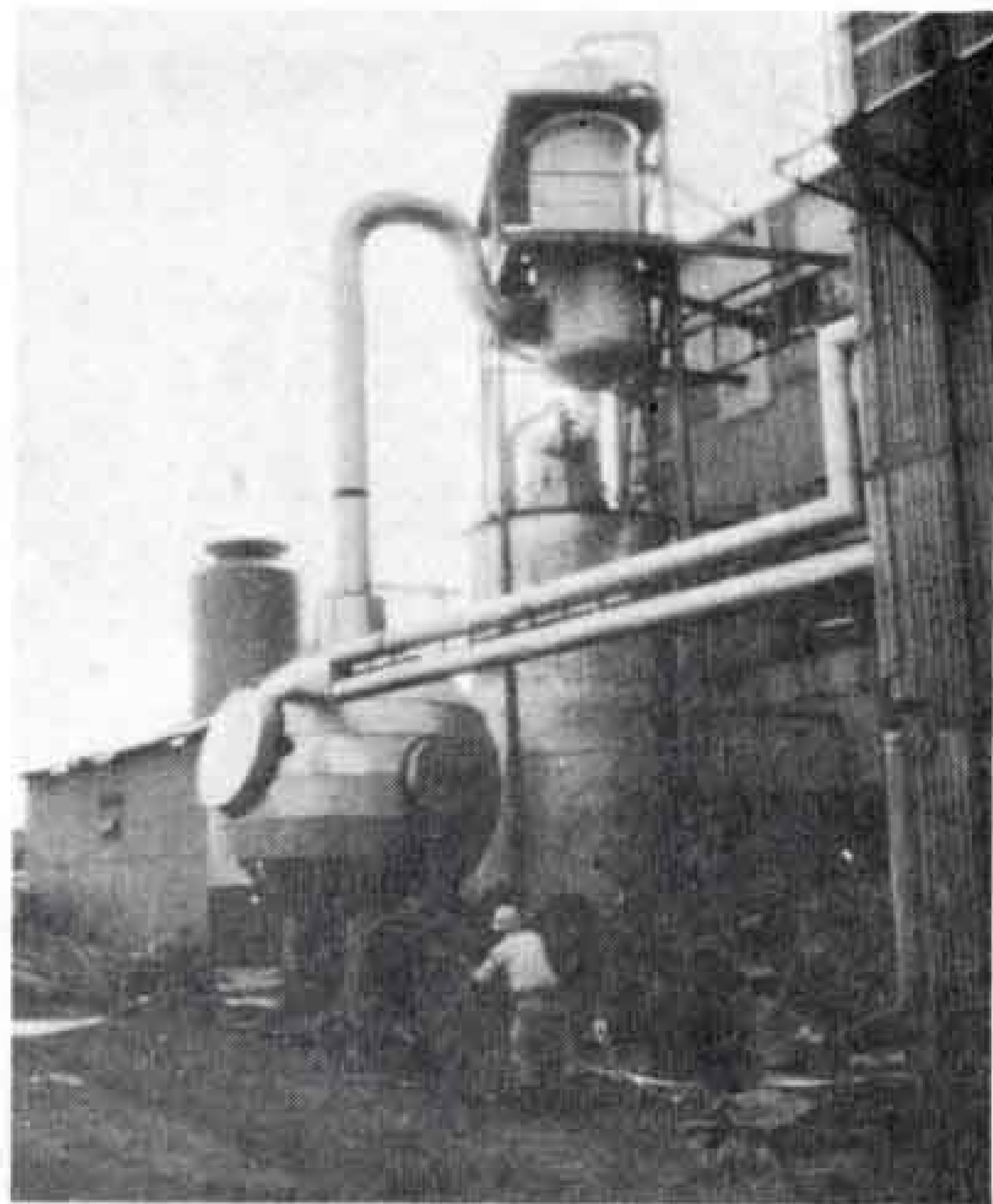
時対策実施要綱に積極的に協力させます
工事はすでにはじめており、45年12月
にはすべて完成します。工費は約1億600
0万円です。

三興製紙富士工場

三興製紙とはすでに第1次協定を結ん
でいますが、今回の締結は工場増設にと
もなるもので第2次協定です。

○大気汚染防止計画

燃料の低イオウ化対策として、現在の
イオウ分2.8%から3.0%重油を今月から
2.5%以下の重油を使用させます。



【チツブを蒸解するとき発生する悪臭
を冷水で処理する悪臭処理装置】

ボイラーは使用中のものを予備にして
公害対策の効率が高い施設にします。ま
た、排ガスを拡散希釈するため8%煙突
を新設します。新煙突による拡散計算は
地上濃度0.0137 P P mになります。

○悪臭防止計画

すべて完全密閉式の水中ブロー方式に
し、ブロー排ガスは大気放出をしないよ
うにさせます。

○騒音防止

しや音壁や倉庫を設置して
効果をあげていくほか、最新の
設備を導入して騒音対策を
はかります。

○排水処理対策

排水は現在全量を岳南排水
路に放流していますが、同排
水路の水量が増加しているの
で、増設後も水量が増えない
ように排水を再使用させます
また、沈澱槽や浄化槽を設
置し、排水の水質浄化をさせ
ていきます。